



JTSU 輸送サービス労組 東京支部

2023.1.23
No. 053

New Year Festival 東京 2023



せえ〜〜のお! Enjoy!

1月21日、越中島本部会議室において「New Year Festival 東京 2023」を開催し、分会代表者を中心に60名の組合員が結集のもと、委員長挨拶と基調報告、脱退パワハラ訴訟団からの決意で2023年の春のたたかいの方向性と健全なJRグループを参加者全員で目指していくことを確認しました。

ウクライナ侵攻と企業利益を優先とした金融政策によりつくり出された円安の影響で物価上昇は留まることはありません。

また、2021年には昇給係数「2」がカットされ今日まで二重の負担が余儀なくされています。私たちは「自らの労働とは」をしっかりと考え「当たり前の生活をする賃金引き上げ」のために一律のベースアップを勝ち取っていかねばなりません。その一方で、会社はこの間「融合と連携」を合言葉に現場を鑑みず次々と施策を打ち出し実施しています。特に「組織再編」「兼務発令」「ジョブローテーション」は整合性が取れずモチベーションやエンゲージメントだけでなく鉄道の安全をも大きく低下させています。制度の矛盾と自分自身の働き方を今一度見つめ直しジョブローテーション廃止も視野に入れた議論を今後も深めて行きます。現在、地方ローカル線の存続問題が様々な場面で謳われていますが輸送サービス労組としては「地方ローカル線を無為に残すことを目指すのではなく地域と連帯し



利用しやすいものなのか」を考えるべきだと感じています。今後「36路線72線区」の地方ローカル線を調査し、鉄道の未来を考えて行くための運動をつくり上げていくため、東京支部はこの1年間「当たり前の運動」を全ての仲間と共に推進していきます。



山崎事務長からの基調報告